

総括

広島大学防災・減災研究センター長 海堀 正博

3つの貴重なテーマの議論を聞かせていただいたこと、光栄に思います。ありがとうございました。3つ目のセッションでお話のあった予測モデルというのがうまくいって、本当に6時間先のことが分かるようになったら、十分なリードタイム、あるいはそれに迫るときの危険度の広がり方、こういったことが分かるわけで、どこになら避難できる、今はどのあたりしか避難できないとか、最終段階では自宅の2階しか行けないとか、例えば、こういうふうなこともちゃんとつかめることになります。本当に大事な研究だと思います。ぜひそういうことが発展していくことを心から願っております。本当にありがとうございます。

今日、私、一番びっくりしたのは、坂田先生のほうのセッションで出てきた、そもそもハザードマップを見てない人が半分ぐらいいると。これは大問題ですね。今日のテーマの一番大事な部分は、地域を知るというか、まず自分事として見てもらえる環境をつくらなければ、いくら大事な情報を発信して伝えたつもりになっても、受け手のほうでそれを大事な情報という認識をしてもらえないということになるわけで。だから、やっぱりそういうのを乗り越えるための何らかの方策が必要だなと感じた次第です。

ここで、第1番目のセッションのパネラーをされた後藤先生からの質問がありました。学校教育の中で何とかできないだろうか。すばらしいですね。今、学校教育の中では、子供を通じて、例えば、広島県の場合はマイ・タイムラインというのを考えるときに——マイ・タイムラインというのは、タイムラインとは違うんですね。自分の家と隣の家、少ししか違ってないわけだけれども、置かれている状況は全然違うよ、マイ・タイムラインで見るのは自分の家の状況、隣の家はまだ大丈夫、もうちょっと時間あるかもしれない、自分のところは、いや、このタイミングでないとだめなんだ、避難しないと、ということも考える大事な取組です。

これは本当に大事な取組で、そのときに、小学校等でそれを子供たちに課すけれども、親と一緒に考える、あるいは近所の人と一緒に考える。こういう流れを通じて、地域に、学校教育の中の取組が、子供、親、近所に広がっていくような取組をされているところがあると聞いております。例えば、こういうものを広げることで、きっと自分事として捉えることもなかった人にも、もしかしたらだんだん広げていける可能性を感じます。そういう意味では、学校教育というものも非常に大事だなと。

後藤先生のほうからのセッションで、地域を知ることが物すごく大事、けれども、ただただ防災のためという考え方じゃだめだね、楽しむことが大事、というようなお話があったと思います。本当にそうだと思います。地域を知るということは、防災にも役に立つ。自分の置かれている環境を知ること、自分の生活を見直したり、あるいは地域のよさを知ることにもつながるわけで、豊かな生き方につながるはずなんですね。きっと、防災のためと特化してしまうと、自分関係ない

と思いたくなる人も多いかもしれないけれども、そうじゃなくて、自分たちの身近な環境を知るといような意味で、第1セッションで紹介していただいたような取組を広げることができたら、それは結局、防災にも役に立つという見方ができるなどと思って、改めて感心いたしました。ありがとうございました。

3番目のセッションで、先ほど塚原先生のモデルの御説明等、これに関しては、先ほども申しましたように、発展を心から祈っていますし、藤原先生から発表していただいたように、避難ルートというものとは時々刻々、通れる状態から通れなくなるとか、こういう情報を的確にみんなに伝えていける環境を大事にしていくことが、本当の意味で——避難というのは命を守るための行動にもかかわらず、3年前のあの西日本豪雨災害では広島県内で21人、少なくとも避難の途中で命を失ったという調査結果があります。こういう、命を守るための行動の途中で命を失うようなことを少しでも減らしながら、本当の意味で、命を守る行動にみんなにつながってもらえるような形にしていけたらいいなと思います。

本日のオープンディスカッションでは、地域を知ることの大事さ、人々の心に訴えていくことの大事さ、そして、本当に命を守る行動のための基礎的なルートであったり、あるいは避難所の在り方、こういったものをみんなで考えてこれたと思います。

最後まで参加して下さった皆様、どうもありがとうございました。

